タキロンシーアイ

タキロンシーアイグループ

CSR報告書 2018

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY




今日を支える、明日を変える。

タキロンシーアイは、
2019年に創立100周年を迎えます。

これまでの100年に感謝し、これからの未来に向けて
すべてのステークホルダーにとって魅力的な企業グループとして社会に貢献しつづけます。

今日を支える、明日を変える。
100th
これまでも、これからも。

企業メッセージ

今日を支える、明日を変える。

ステートメント

私たちにできること。
丈夫で使いやすい製品を安定的に供給すること。
それは、安心して暮らせる今日を支えるために。

技術とアイデアで時代が求める製品をつくりだすこと。
それは、明日の暮らしをもっと快適に変えていくために。

私たちがすべきこと。
これまでも、これからも、プラスチックが持つ可能性を
暮らしに役立つ姿へと変えていくこと。

もっと強く、もっと軽く、もっと美しく、そしてもっと環境にやさしく。
私たちは、柔軟な発想で、新たなモノづくりに挑戦しつづけます。





CONTENTS

CONTENTS／編集方針 …… 5
TOP MESSAGE …… 6

特集
タキロンシーアイグループの企業価値向上プロセス …… 8
座談会　タキロンシーアイグループのこれから …… 10
社会に貢献するタキロンシーアイ製品 …… 16
タキロンシーアイグループ製品と社会とのかかわり …… 18

マネジメント体制
CSRマネジメント …… 20
企業統治 …… 22

社会性報告
ステークホルダーとともに …… 24
従業員とともに …… 26
安全衛生の取り組み …… 30
地域･社会とともに …… 32

環境報告
地球環境とともに …… 34
環境指標 …… 36
環境会計 …… 38

会社概要 …… 40
第三者意見 …… 43

編集方針

本報告書はタキロンシーアイグループが進めるCSR経営およびCSRの基本的考え方と具体的な取り組みを報告し、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的として発行しております。

- **報告期間**
  2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）
  ＊一部対象期間外の情報も含まれます。
- **報告組織**
  タキロンシーアイ株式会社およびグループ会社
- **発行日**
  2018年9月30日

コミュニケーションツールのご紹介

タキロンシーアイグループの基本情報についてはWebサイト「企業情報」にて、詳細な経営情報については、Webサイト「IR情報」を通じて公開しております。

＊タキロンシーアイのWebサイトには当社の事業概要がわかるビデオサイトを用意しております。是非ご覧ください！
https://www.takiron-ci.co.jp/ad/



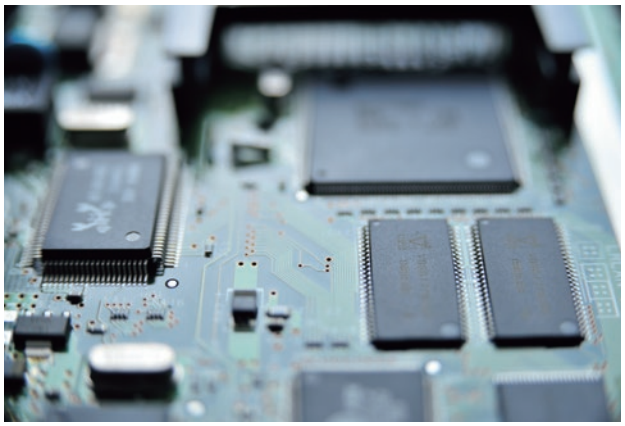
企業情報 https://www.takiron-ci.co.jp/


財務情報（IR情報） https://www.takiron-ci.co.jp/ir/

■ **本報告書についてのお問い合わせ先**
CSR･コンプライアンス部
TEL（03）6711-3933
FAX（03）6711-3935



CSR活動
https://www.takiron-ci.co.jp/csr/







TOP MESSAGE

代表取締役社長

南谷　陽介

社会の持続的な発展への貢献

2015年に国連において「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されたように、世の中の社会課題に対する意識が高まっています。加えて、マイクロプラスチックによる海洋汚染といった新しい社会問題も提起されており、企業が事業を通じて社会課題を解決することへの期待もますます高まっていると認識しています。

タキロンシーアイグループは、「プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する」という使命のもと、地球環境に配慮した商品・サービスなどを始め、さまざまな「新しい価値」を創出し、社会課題の解決、さらに社会の持続的発展へ貢献することを目指しています。

2017年4月の経営統合による事業ドメインの拡大により、社会インフラの老朽化、農業生産性の向上、少子高齢化社会、頻発する災害といった社会課題へ対応する製品・サービスがさらに充実しました。

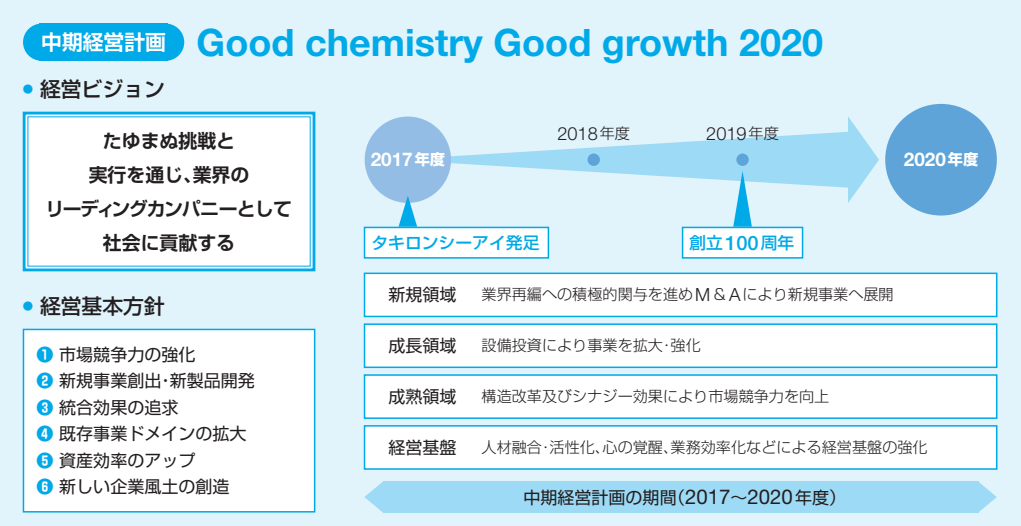
引き続き、お客様に満足いただける品質とともに、社会の期待に応える“ものづくり”を推し進めていきます。

2017年度から2020年度までの中期経営計画【Good chemistry Good growth 2020】の初年度は順調なスタートを切ることができました。統合シナジーを極大化させつつ、新規領域、成長領域および成熟領域のすべてにおいて、引き続きそれぞれの成長戦略を緩めることなく、経営資源の積極的な投入や競争力向上に取り組んでいきます。

また、中期経営計画では、CSR経営の推進も重要なテーマに位置付けています。新しい価値の創出や企業価値向上の源泉として、健全なガバナンス機能と社員の健康・安全、ステークホルダーとの対話が不可欠と考えており、『環境・社会貢献』『コンプライアンス』『働き方改革・安全衛生』『社会とのコミュニケーション』を基本方針としたCSR強化策を推し進めていきます。

タキロンシーアイは、統合後の歩みはまだ1年余りですが、旧タキロンの前身である滝川セルロイド工業所の設立から数えれば、2019年に創立100周年を迎えます。

これまでの100年と同様、これからの100年もすべてのステークホルダーの皆様の信頼に応える「人と地球にやさしい企業」であり続けます。



タキロンシーアイグループの企業価値向上プロセス

タキロンシーアイグループは、「プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する。」という使命の実現に向けて、地球環境に配慮した商品・サービスと価値を創出することにより、社会課題を解決し、さらに社会の持続的発展への貢献をめざしています。

社会課題

- 地球環境の悪化
- 自然災害の増加
- 資源・エネルギーの制約

- 社会インフラの老朽化
- 先端産業の振興
- 国土の保全と管理

- 生活環境
- 食糧の自給と安全性
- ライフスタイルの多様化

タキロンシーアイの事業分野

建築資材事業
採光建材／住宅資材／管工機材／床材／建装資材／避難・誘導製品／水災対策製品　等

高機能材事業
樹脂板・切削材料／マイクロモータ／磁性材関連　等

環境資材事業
農業用資材／結束資材／インフラマテリアル／土木製品／薬液タンク　等

機能フィルム事業
熱収縮フィルム／ジッパー　等

経営

企業

CSRマネジメント

ステークホルダー

- 株主・投資家
- お取引先
- 行政

中期経営計画

Good chemistry
Good growth
2020

統合シナジーの創出

サプライチェーンのシナジー

購　買　生　産　販　売　物　流

マネジメントのシナジー

研究開発　経営基盤　人　ネットワーク

理　念

行 動 基 準

コーポレート・ガバナンス

創 出 す る 価 値

- 社会と環境の共生
- 防災・減災
- 省資源・省エネルギー
- 社会インフラの再生・強化
- 先端産業分野への貢献
- 健全で豊かな国土づくり
- 豊かな生活環境の実現
- 農業活性化への寄与
- 暮らしの利便性の向上

社会の持続的発展

社会課題の解決

お客様　地域・社会　従業員

座談会

タキロンシーアイグループのこれから

Good chemistry Good growth



出席者

岡山工場 工場長	法務部	経営企画部 部長	建築資材企画統括部 部長	研究開発部 副部長
吉田 清治	坂本 玲	中嶋 政文	藤田 孝之	宮浦 克己

司会進行

CSR･コンプライアンス部 部長
髙田 清志

経営統合のシナジー効果

司会　2017年4月の経営統合から1年余りが経過しました。主要拠点オフィスや製造現場における社員レベルの融合が進むなか、中期経営計画「Good chemistry Good growth 2020」の内容を踏まえながら、これからのタキロンシーアイグループについて意見を交わしたいと考えます。

まずは、経営統合のシナジー効果です。皆さんはどのようなシナジー効果を感じていますか。

宮浦　研究開発部門は、両社の研究部門が合流して一つの部署になりました。実は経営統合以前からタキロンとシーアイ化成の間で人材交流を行っていましたので、比較的スムーズに融合できたものと思っています。人的資源が二倍になり拠点も統合しましたので、出身会社の壁を越えてチームで仕事をすることも多くなり、同じ作業服を着ていると、出身母体などわからないくらいです。地理的に離れている工場などの製造現場はどうでしょうか。

吉田　タキロンシーアイグループは国内25箇所、海外7箇所の広範囲に生産拠点が所在していることもあり、現時点ではグループ全体での大きなシナジー効果が出ているとは言えませんが、徐々に発揮されつつある状況でしょうか。統合直後から、各工場の人･設備･品質管理･製品･材料･製法などを相互に知るために各工場長が国内の全拠点を巡回する交流から始めました。そして、何より重要な「安全管理」と「品質向上」についてのノウハウ共有化と体制づくりにつなげています。さらに期待できるシナジー効果としては、コスト削減や情報共有はもちろんですが、やはり大きいのは人材育成ではないでしょうか。今後、新人に対する教育制度や技術伝承の仕組みの統一をはかっていく予定です。

中嶋　経営企画部では、風通しのよい職場づくりと両社の融合を推進するため「もっ



としゃべろか！」という社員参加型のプロジェクトを展開していますが、製造現場から参加している若手から「お互いの工場を一度見てみたい」という声が出ているようです。交流は一般社員レベルまでできていますか？

吉田　生産本部では「安全」を切り口にグループ長やスタッフ、作業長、班長、オペレータが参画する交流を近隣の工場同士で始めています。岡山工場も、関連会社を含む西地区ブロック（4生産拠点）の相互安全点検に既に5回参画し、お互いの工場同士で不安全な箇所を指摘し合うとともに良い箇所を発見して自部門の改善につなげる取り組みを進めております。

中嶋　「安全」を切り口に、というのはいいですね。私自身は、立場が上の者同士の交流だけではなく、そういうふうに交流の輪を現場レベルまで広げていただく工夫がさらに必要だと考えています。

吉田　岡山工場は、整理整頓や現場力に関してかなり優秀な工場だと思っているのですが、やはり実際に他の工場を見ると、もっと良くしていこうという気持ちが出てくるようです。

坂本　先ほど宮浦さんがおっしゃった「人的資源が二倍になった効果」は、法務部でも感じています。二つの会社が一緒になったことで部門としての陣容がそろって、さまざまな法務経験や専門知識を持った人同士で話し合いながら仕事ができるようになりました。以前のシーアイ化成時代は、担当者が自分一人でしたが、今はチームで仕事ができるようになってきたと感じています。他のスタッフ部門でも同様の声を聞きます。やはり少数精鋭のスタッフ部門では特に人的シナジー効果が高いのかもしれません。

司会　事業部門ではいかがでしょうか。

藤田　今回の統合で、事業部門において両社の人的融合比率が最も高いのは、床・建装事業部なのですが、特に大きなシナジー効果が表れたのは製品面です。例えば、バルコニー専用床材『タキストロンWB』という新製品は、タキロンの床材技術から作られているのですが、デザインはシーアイ化成建装部門出身の社員が担当しました。開発当初のデザインはタキロン社員と外部デザイナーに依頼していましたが、経営統合後は、同じ会社の仲間として製品を熟知しつつ、タキロンには無かった感性を持つ同僚がデザインしたことが成功につながりました。やはり異なる企業文化が一つになって、さまざまな異質の知識が入ってきたことが非常に良かったと思います。またシーアイ化成は、表面加工に優れた技術をもっているので、今後の製品に取り入れて、付加価値を高めていきたいと考えています。

宮浦　開発部門としては、製品の幅が広がったことも大きいのですが、それ以上に技術力の基盤が広がったことがシナジー効果として大きいと思います。このシナジー効果を有効に活かして、新しいモノづくりにチャレンジしていきたいと考えています。また、両社の設備を集約することで今後の投資も抑えられますから、その分を他の投資に回すこともできます。今回の統合は、研究開発部門にとって非常に良い効果をもたらしたと思っています。

中嶋　経営企画部を見渡してみても、今まで単独では解決できずに先送りしていた経営課題が、この統合をきっかけとして構造改革が一気に進み、決定できたケースが実はかなりあります。また、購買部門や販売部門、物流部門などにおいてもシナジー効果が大きく、企業の競争力強化にダイレクトに影響しているように思います。後は、こうして各所で表れているシナジー効果を、どのようにして社員全員に感じてもらうかが重要です。それがこれからの課題ではないでしょうか。



経営企画部 部長　中嶋政文



研究開発部 副部長　宮浦克己



建築資材企画統括部 部長　藤田孝之

中期経営計画「Good chemistry Good growth 2020」に込めた想い

司会　タキロンシーアイグループとして初めての中期経営計画である「Good chemistry Good growth 2020」では、そうしたシナジー効果や構造改革はどのように位置づけられているのでしょうか？

中嶋　中期経営計画のタイトル「Good chemistry Good growth」には、今回の経営統合が良い意味の化学反応を起こして、すばらしい成長を遂げていきましょうという想いが込められています。また、経営戦略のスローガンとして「コモディティをスペシャルに」という言葉を掲げています。これは経営統合前の両社共に長い歴史を持つ会社で、ともすると新製品開発よりもロングセラー製品に頼ってしまう傾向がありますが、今回の統合を機に今はコモディティと言われるロングセラー製品でも、さまざまな付加価値を付与することで、お客様にとってスペシャルな存在にしていきましょうという戦略です。

藤田　建築資材事業本部では、この「コモディティをスペシャルに」というキーワードに沿って、お客様の役に立つサービスの開発に取り組んでいきたいと考えています。例えば、いま建築業界は職人不足が深刻な問題ですから、製品の曲げ加工やカットサービスなど現場の負担を減らす工夫によって付加価値を上げ、お客様が使いやすい製品としてスペシャルな存在になることをめざしています。

宮浦　開発部門としては、これまでに新製品を出していないわけではないのですが、社員の記憶に残るインパクトの大きい新製品が少なかったのかもしれません。統合で基盤技術が倍になるというシナジー効果が生まれていますから、社員の記憶に鮮明に焼き付くような新製品を是非とも開発したいと思います。そのため、中期経営計画の1年目である2017年度は、1年かけて研究開発の中長期テーマの絞り込みを行ってきました。

司会　製造現場では、中期経営計画のどのような点を意識していますか？

吉田　岡山工場のミッションは、グローバルレベルの最適地生産によって、より効率のいい生産体制を構築することにあります。その中で、岡山工場がタキロンシーアイグループ（ボンセット事業部）の製造技術の総本山というポジションを担い、グローバル展開の加速にいかに対応して、培った技術を各拠点へ発信できるかが大きな課題だと思っています。また、中期経営計画の目標に沿って、岡山工場でも増産対応の方針を打ち出していますが、そのためには設備の増強とともに人材の確保とその育成が欠かせません。先ほどから人的資源のシナジー効果という話が出ていますが、人材育成と配置の最適化を突き詰める必要があると考えています。

中嶋　経営統合により製造拠点も非常に多くなり、かつ強くなりました。一方、管理面では逆に非効率になったのではないかという見方もあり、集約の検討も必要でしょう。ただし、なんでも集約ありきではなく、どういう効率化ができるかについて考える余地がまだあると思っており、経営企画部でもこれからの課題と考えています。

司会　中期経営計画では、海外展開の加速も重要テーマとして掲げています。この点はいかがでしょうか。

中嶋　タキロンシーアイグループの海外事業所は、現状でも一定の現地化が進んでいて、特に北米では日系の会社と思われていないレベルにあるのですが、経営トップはまだローカル化が徹底できていないと考えています。メーカーの海外展開はさらなるローカライズを進めないともう一段


岡山工場 工場長　吉田清治


法務部　坂本玲


CSR·コンプライアンス部 部長　髙田清志

階発展できないという考えのもとで、今回の中期経営計画の目標として「とにかく海外をがんばろう」という掛け声だけではなく、現状展開している海外事業の拡大に向けてローカライズをどう進めていくか。それが課題と思っています。

中期経営計画では海外売上比率を増加させるという目標を設定していますが、ローカライズについては本社側、特に管理部門のグローバル対応力の強化も含めてじっくり取り組んでいきたいと考えています。

司会　製造部門の海外展開については、経営統合前から岡山工場を中心とした生産連携を行っていましたが、今後はどのように進化させていきますか。

吉田　岡山工場では、海外製造拠点における生産性向上に特化した支援として日本人の技術者を派遣していますが、最終的にはローカライズをより進めて、現地で自主的に技術向上をはかっていけるような体制づくりが重要になってくると思います。やはりビジネス文化の違いや従業員の定着率の違いなどもありますから、一朝一夕にローカライズができるものではありませんが、海外展開における具体的な売り上げ目標を達成するのであれば、技術者へのフォローはもちろん、現地従業員の管理に対する本部からのフォロー、ローカライズのための体制づくりなどに関して、今回の統合シナジー効果に期待したいと思っています。

タキロンシーアイグループにおけるCSRとは？

司会　続いてはCSRについてです。CSR経営の強化は中期経営計画の柱の一つでもあります。企業文化の異なる両社が統合したことで、私たちの働き方はどう変わったでしょうか？

坂本　部署内でお互いにフォローし合えることのすばらしさを実感しています。「特定の人がやらないと何も進まない」という弊害は規模の小さい会社ほどよくあると思いますが、統合してそういうことがなくなった気がします。

宮浦　イメージとしては、シーアイ化成の方は皆さん退社時間が遅い印象があったのですが、その点は統合で変わりましたか？

坂本　とても早く帰るようになりました（笑）。人事制度が統合·刷新され、残業のみならず「働き方改革」が進んでいるように感じます。

司会　中期経営計画では、CSR強化の取り組みとして「多様性への対応」も取り上げています。ダイバーシティが進んだ印象はありますか？

坂本　女性活躍という意味では、タキロン、シーアイ化成共に、そもそも職場に女性が少なかったので目に見えるような変化を感じるものではありません。ただまずは女性の数を増やすことに取り組んでいることは感じますし、例えば「自分は工場長になりたい」という女性社員も出てきています。特に若い人ほど、自然体で考えられるようになってきている気がします。

吉田　岡山工場では新人総合職の製造現場研修を実施していますが、新人女性総合職の方から「どうしたら工場長になれますか？」と質問された記憶があります。それを聞いて、「最近は変わったな」と頼もしく思いました。我々が成すべきことは、そういう有望な社員のモチベーションを下げず、やる気を損なわない職場環境を整えること、そしてジェンダーに関係ない人材育成の枠組みや環境づくりが必要であると感じています。

宮浦　開発部門でも女性比率が高まっています。仕事に対するモチベーションは、



男女問わず一緒だと感じています。統合に伴う人事制度の一本化で地域総合職が創設されるなど、女性の活躍を後押しする制度も徐々に整ってきていますから、吉田さんのおっしゃる通り、モチベーションをいかに維持するか、それがいちばんの課題ですね。

坂本　周りが背中を押したり、支えたりすることでも意識やモチベーションはかなり変わると思いますし、前向きに仕事に向き合えるサポートをしてもらえるともっと活躍できると思います。

司会　当社は使命や経営ビジョンにおいて、社会への貢献、人と地球にやさしい未来の創造を掲げています。社会課題や環境問題に対して、タキロンシーアイグループは事業を通じてどのような貢献ができるのか。例えば、当社には社会インフラの構築に欠かせない製品や環境に配慮したさまざまな製品がありますが、これらの製品はどのように役立っているのでしょうか？

藤田　一例を挙げると、建築資材事業の床材に『プラスケア』という製品があります。これは床材に弾性機能を付けているので転んでもけがをしにくいという特徴を持っています。商業用、幼児施設用、プールサイド用と3つのパターンで商品展開していますが、特に幼児施設用やプールサイド用は、次代を担う子どもたちの安全確保に貢献します。また、足腰に不安のある高齢者にとっても安心ですので、少子高齢化という社会課題に貢献する製品だと考えています。

司会　研究開発部門では、こうした社会課題や環境問題の解決に役立つ製品を開発する上で、気をつけていることはありますか？

宮浦　開発の段階でデザインレビューを行うわけですが、その中に環境影響評価という項目があって、温暖化や資源の有効活用、生態系への影響などを評価しています。当社の製品は中間素材なので、最終製品のようにその効果をユーザーに納得してもらうことは難しいのですが、その素材単体でどれくらい環境配慮ができているかに常に留意しています。

あと、研究開発の検討テーマの一つとして、少子高齢化とそれに伴う人口減少を挙げています。少子化で労働人口が減ると、工場では人に変わってロボットが増えていくと言われています。そのロボットの構成部材として当社が軽量かつ高強度なプラスチック材料を提供していきたいという考えを持っています。

司会　製造部門ではいかがでしょうか。

吉田　岡山工場では自主保全活動（クリーンアイ活動）に取り組んでおります。2008年にキックオフした本活動では、全従業員が生産性の向上（総材料歩留向上、突発設備故障低減、クレーム削減）に取り組むことで、利益貢献はもとより、エネルギー原単位の改善につながっております。また、設備面においては省エネタイプの機器へ計画的に更新することで省エネをはかるとともに地球環境にやさしい原材料（植物由来）の開発も開発部門で進めております。

司会　企画部門はいかがでしょうか。

中嶋　現在世界的な問題となっているマイクロプラスチックといった環境問題に対しても、プラスチック加工メーカーとしては真摯に向き合っていく必要があります。このような事象への課題解決のポイントはまず、全社で組織横断的に課題を認識し、その上で当社ができることについて一つずつ行動を開始することだと考えます。社会におけるこのようなCSR意識は日々高まっており、既にあらがえないトレンドだと捉えるべきです。

坂本　ガバナンスの充実がCSR経営の強化につながると思います。統合によりさらに進化しつつあるコーポレートガバナ





ンスやコンプライアンス、リスク管理の推進により経営基盤が強化されるとともに、さまざまなCSR活動を支えていくように感じます。

これからの「あるべき姿」を考える

司会　最後に、これからのタキロンシーアイグループはどのようにあるべきか、について語っていただきたいと考えます。また、そのために今から取り組むべきことは何でしょうか。

宮浦　まず、タキロンシーアイはプラスチック加工業界のリーディングカンパニーになっているだろうということです。働き方に関しては、今のような画一的な勤務体系ではなくなっているでしょう。製造現場には、ロボットやAIなどがどんどん入り込んでいるかもしれません。しかし、30年後、50年後であっても会社の要は人だと思います。将来のタキロンシーアイに対する我々の責任として、今の技術を次の世代へしっかり伝承していくことに取り組んでいきたいと思います。

坂本　人口減少や少子高齢化といった社会や生活スタイルの大きな変化に伴い、既に始まっていますが、社員の働き方やその柔軟さが変わるのは間違いなく、さらに、今後はグローバル展開の加速でますます外国人社員なども増えて、さまざまな文化や価値観が混在するようになってくると思います。一方で、一つの企業グループの中で働くものとしてのよりどころが必要ですから、ビジョンや企業理念などタキロンシーアイで働く意義づけがこれまで以上に重要になるものと考えます。また、今回の経営統合が良い見本になり、時代や働き方が変わってもコミュニケーションを大切にする企業であってほしいと思います。

藤田　日本の人口減少がさらに進むものと想像されますので、タキロンシーアイとしては海外展開の重要性がさらに高まるものと思います。将来は海外のさまざまな建築物にタキロンシーアイ製品が使われているというのが理想だと思いますし、また、そうなっていなければいけないと思います。

吉田　当社は、社会への貢献、人と地球にやさしい未来の創造をめざしています。そのために今からやるべきことは、環境に配慮したモノづくりだと考えています。これまでにも増して注力する必要があると思います。植物由来などの地球環境にやさしい材料を使う、あるいは製品廃棄後のリサイクルシステムに関連する事業展開をより積極的に進めて行くべきではないでしょうか。環境問題は年々深刻化していますので、我々としてもモノを作るだけではなく、再資源化やリサイクルに関わる事業展開が全社的に必要だと思っています。

中嶋　未来というよりもう少し近い将来の話をさせていただきますと、少なくともタキロンシーアイの前途は明るいと私自身は思っています。経営統合に深く関わった者の責任として、タキロンシーアイグループになって良かったと、中堅以下の若手社員が実感できるようにする必要があると思っています。

今日は、統合によって生まれたさまざまなシナジー効果を話し合うことができましたが、多くの社員にはまだその効果を十分に伝えることができていないかもしれません。一人でも多くの社員に、統合してよかったと実感してほしいですし、それを伝える機会を可能な限りつくらないといけないと思っています。

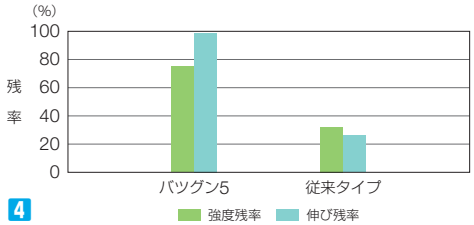
司会　本日は貴重なご意見をありがとうございました。

社会に貢献するタキロンシーアイ製品

タキロンシーアイグループでは、「お客様に満足して頂ける品質と価格を提供し、社会に貢献する」経営理念のもと、事業活動を通じて環境問題・社会問題解決に資する製品の開発・販売を進めています。ここでその活動事例をご紹介いたします。







1 ハウス使用事例
2 フィルム構造図
3 防滴性比較
4 耐酸性農薬試験

作物の収穫時期を調整でき、また安全で美味しい作物の収穫へもつながる農業用ハウスは現在の日本では欠かすことのできない設備ですが、タキロンシーアイではこの農業用ハウス被覆資材に用いられるフィルムを1960年代から生産。今では被覆面積国内トップのシェアを誇っています。このうち農業用ポリオレフィンフィルム「バツグン5」は、国内唯一の5層の構造で多くの機能を付与。特にフィルム表面に親水性のコーティングを施すことで、特徴ある機能を発揮しています。

ハウス栽培ではハウスの内外で温度差が生じハウス内側が結露する傾向にありますが、結露により水滴が作物に落ちることで雑菌が繁殖。作物への病気蔓延を防ぐために農薬を使用することになります。一方バツグン5をはじめとする当社製品は、フィルム表面への親水性コーティングにより、結露から生じる水滴がフィルムを伝って流れることで作物に直接落ちるリスクを軽減します。この機能により、結露に起因する病気の発生抑制に寄与しています。

農薬使用の減量

特に「バツグン5」は5層構造の強みを活かし、従来製品で問題となっていた高温の厳しい環境下でもこの性能を維持。結露による水滴が作物に落下する頻度がさらに低い農薬使用の減量に貢献する製品です。

廃プラの削減

これまでの農業用フィルムは酸性系農薬使用環境下で劣化が促進され、フィルム張替えの頻度も高い傾向にありました。「バツグン5」はこの、酸性系農薬への耐性も大幅に改善。自然界に存在するイオウ等の殺菌剤を生産者が使用しやすい環境の実現とともに展張期間の長期化（1年→5年）をもたらしました。これは廃プラスチックの削減につながり、地球環境負荷の低減にも寄与しています。

海外でも

親水性コーティング技術は海外でも広く受け入れられており、生産物の輸出に力を入れている韓国や、安心安全な作物への要求の広がりが見られる中国にも広く輸出されております。特に耐久性・結露防止効果の持続は高評価を得ています。今後も、全世界の生産物の安心安全に貢献できるよう努めてまいります。



プラスケアシリーズ

転倒事故のリスク低減

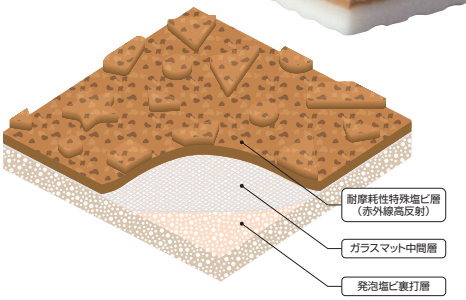
歩行中の転倒による死亡事故は年々増加傾向にあり、その死亡者数は2010年に交通事故の死亡者を超えて、2016年には5,788人※1となりました。

高齢化の進行などの理由で、転倒事故のリスクは今後も増加していくことが予想されます。このたびタキロンシーアイは、防滑床材のパイオニアとして今後社会で求められる安全要求に応えるため、「プラスケアシリーズ」を開発しました。プラスケアシリーズは、従来の「滑りにくい」にプラスして「万が一の転倒でもダメージを軽減できる」床材です。タキロンシーアイ独自の、摩耗しても同じ柄が出る「インレイド構造」(＝耐久性に優れ長期使用が可能)とクッション性に優れる「発泡層」が最大の特徴です。

「発泡層」の強度調整により床材の基本的な“歩行のしやすさ”と“耐久性”を保持したまま転倒事故のリスク低減を達成しました。

マンションや幼保施設、プールなどの幅広い場面で、お客様の足元の安全・安心に貢献します。

※1:厚生労働省人口動態統計
※2:2016年交通事故者:3,904人「警察庁交通局　平成29年度中の交通事故者数について」より





水膨張性止水材
ビノンハイドロタイト









大規模交通インフラ整備で活躍

社会インフラ整備を支える鉄道や道路において、特に大深度・大口径の大規模な地下トンネル工事での止水対策は、安全面だけでなく構造物の長寿命化の観点からもとても重要です。「ビノンハイドロタイト」は吸水性樹脂と合成ゴムを加熱成型した水膨張性ゴム止水材です。一般の加硫ゴムと同様の反発弾性・復元性によるパッキング効果に加えて、優れた水膨張特性を有し、セグメント用止水材として35年以上にわたり使用されています。

国内はもとより海外でも

2018年6月2日に開通した東京外かく環状道路(三郷南IC～高谷JCT)の地下トンネル部分においては、複数の工事で採用されております。発展著しい東南アジアでは、インドネシア初のジャカルタ地下鉄工事(2020年開業予定)、同じくベトナム初のホーチミン地下鉄工事でも長年の実績と信頼の技術が認められ採用されております。急速な自動車の増加で社会問題になっている交通渋滞の解消に向けた交通インフラの整備に、国内外を問わず貢献しています。

タキロンシーアイグループ製品と社会とのかかわり

軽量性・加工性などプラスチックが持つさまざまな優位性・特性を活かし、
タキロンシーアイグループは独創性に富んだ多彩なプラスチック製品を生み出してきました。
これらの製品は農業・土木・建築分野から国内外の社会インフラや最先端の電子産業分野、
また身の回りやくらしに至るまで幅広い分野で使用され、豊かな生活環境づくりと社会の発展に貢献しています。

アグリ


ハウス用フィルム


カラー鋼管（農業用ねぶし竹）


灌水チューブ



産業資材


ホワイトボードシート マグウォール


工業用プレート


レーザー遮光プレート（タキシャロン）


マイクロモータ


超微粒子マテリアル

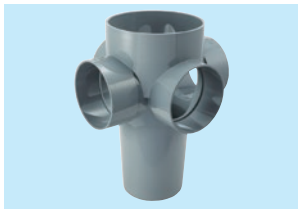

クリーンルーム

ライフスタイル


マンション通路床材


内装用化粧フィルム


雨樋(ジェットライン)

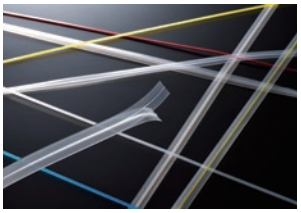

雨水マス


小規模雨水貯留・浸透槽貯留材


ジッパー付プラスチック袋



ボトル用収縮ラベル


ジッパーテープ


カーポート向屋根材



社会インフラ


透光板(ポリカーボネートプレート)


複層板(ルメウォール)


止水板


遮水シート(産業廃棄物処理場)


管更生工事(下水管)


ハウエル管(土木排水管)

CSRマネジメント

タキロンシーアイは、「プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する」との使命の下、ステークホルダーの皆様からの要請や期待に応えるとともに、事業を通じた社会の持続的発展への貢献をめざしています。
また、安心・安全な製品・サービスの提供、公正な事業活動の推進、人権の尊重、環境対策、地域社会との共生などのCSR活動を通じて企業価値の向上を図っています。

タキロンシーアイの使命

プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する。

タキロンシーアイの経営理念

1. 私達はつねに地球環境保護をこころがけ、企業の永続的な発展成長をめざします。
2. 私達はお客様に満足して頂ける品質と価格を提供し、社会に貢献します。
3. 私達は社会の変化を先取りし、未知への挑戦に情熱をもやします。
4. 私達は人を大切にし、個性と創意を尊重します。
5. 私達は正当な利潤を追求し、公正な配分につとめます。

CSR経営

タキロンシーアイでは社会の持続的な発展への貢献をめざし、中期経営計画において以下の観点からCSR経営の強化を図っています。

環境・社会貢献	コンプライアンス
● 環境負荷の低減 ● 環境配慮型製品の提供 ● 社会的課題への対応	● グループ・コンプライアンス体制推進 ● コンプライアンス意識の向上 ● 内部通報制度の充実

働き方改革・安全衛生	社会とのコミュニケーション
● 社員の健康と安全の確保 ● 多様性への対応 ● 人材育成	● 適正・能動的な情報開示 ● ステークホルダーとの対話 ● 地域社会との対話

タキロンシーアイグループ企業行動基準

タキロンシーアイグループ企業行動基準は、タキロンシーアイグループの全役員ならびに従業員および派遣社員等、タキロンシーアイグループにおいて業務に従事する全ての者が企業活動を行うにあたり、社会を構成する一員として、タキロンシーアイグループのもつ社会的責任を深く自覚し、関係法令および各社定款の遵守を徹底するとともに、社会倫理に適合した行動をとることを目的として、以下に記載する各項目について遵守すべき事項を定めたものです。

タキロンシーアイグループ企業行動基準（概要）

企業活動に関する基本的な姿勢
- 健全な企業活動の展開
- 関連諸法令等の遵守
- 社会への貢献
- 基本的な人権の尊重

社会的責任
- 地球環境の保護
- 政治献金・寄付行為
- 反社会的な勢力・団体への対応
- 国際協調
- 安全保障貿易

顧客、購買取引先、競争会社等に対する行動規範
- 公正で自由な取引
- 製品の安全性
- 公務員等に対する供応
- 購入取引先との取引
- 贈物、接待への対応

全役職員等に対する行動規範
- 全役職員等の人権の尊重
- 安全かつ衛生的な職場環境の確保

株主・投資家への情報に関する行動規範
- 企業情報の開示
- インサイダー情報と株式等取引

会社財産の保護、企業情報に関する行動規範
- 会社の有形・無形財産の保護
- タキロンシーアイグループ各社・顧客・購買取引先に関する情報
- 適正な会計処理
- 広報活動
- 知的財産の取扱い

ステークホルダーの皆様とのつながり

タキロンシーアイは主要なステークホルダーを株主・投資家・お取引先様・行政・お客様・地域・社会・従業員と位置づけております。そして事業活動を通じて皆様方との共存・共栄と信頼関係の構築を図ることが重要であると考えており、公式ウェブサイトやCSR報告書等により事業活動におけるさまざまな情報を提供しております。

	株主・投資家	お取引先	行政	お客様	地域・社会	従業員
コミュニケーションツール	有価証券報告書・決算短信 事業報告書・アニュアルレポート	タキロンシーアイ材料紹介・問い合わせ窓口（Web）	―	各製品カタログ・SDS・お問い合わせ・資料請求窓口（Web）	―	社内報 社内イントラネット 相談窓口・内部通報窓口
接　点	株主総会・決算説明会・IR	購買活動	許認可申請・各種届出 行政主催活動への参加	製品販売・PR活動・品質保証サポート 展示会・各種媒体による広告宣伝活動	地域活動・イベントへの参加 福祉ボランティア活動・募金／寄付活動	労使懇談会・労使協議会 各種研修

企業統治

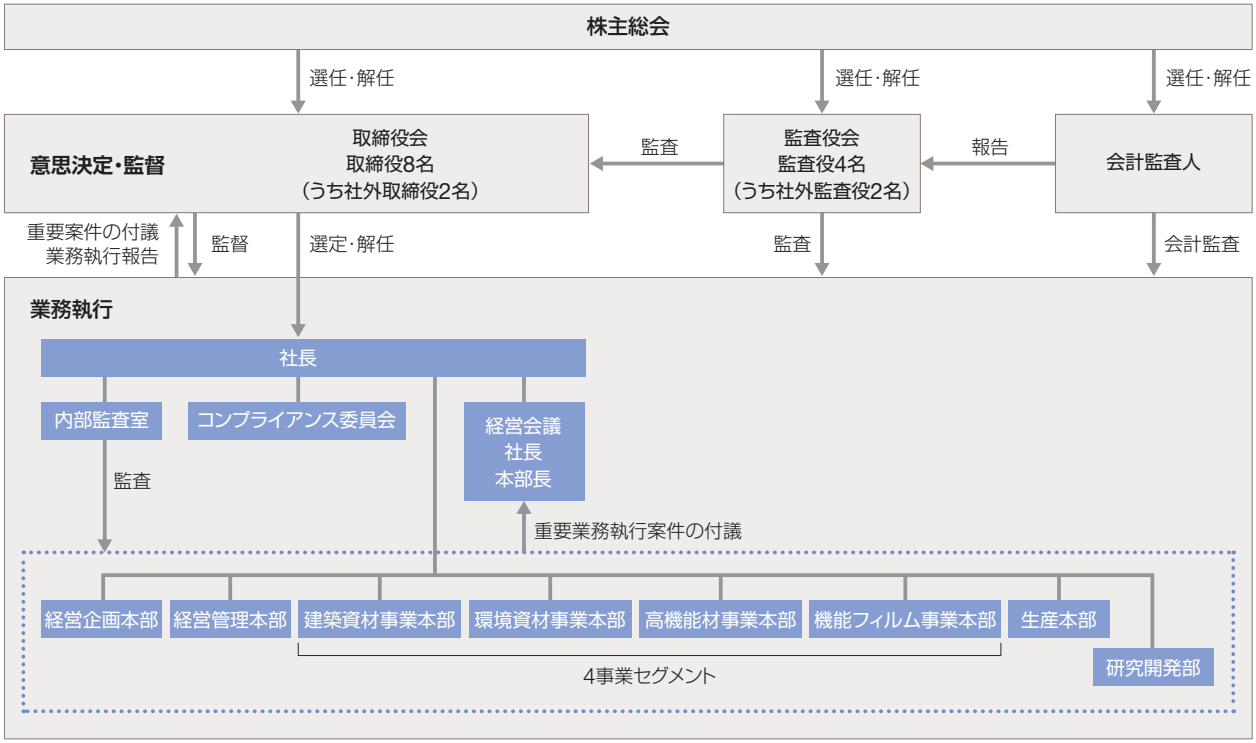
タキロンシーアイグループでは、健全で透明性の高い経営のために、コーポレート・ガバナンスの充実、コンプライアンス体制の強化およびリスクマネジメント体制の最適運用を推進しています。

コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの信頼を得て、企業価値を向上していくためには、経営の効率性、透明性を高めていくことが欠かせないと考えています。そのため、右記の2点を基本にガバナンス体制を強化し、組織統治の充実に努めています。

1. 取締役会は社外取締役2名を含む取締役8名で構成し、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務遂行を監督する。
2. 取締役は取締役会が決定した役割に基づき、業務執行に関する意思決定に参加する。
   また、社外監査役2名を含む監査役4名が取締役の職務遂行の適正性を監査する。

コーポレート・ガバナンス体制





コンプライアンス体制

企業は法令を遵守することはもとより、社会規範や社会通念に即した高い倫理観を持って行動することが求められています。この認識のもと、従業員ひとり一人が業務を遂行するにあたり法令や社会規範、経営理念に基づき正しく行動できるよう、「タキロンシーアイグループ企業行動基準」を策定しました。

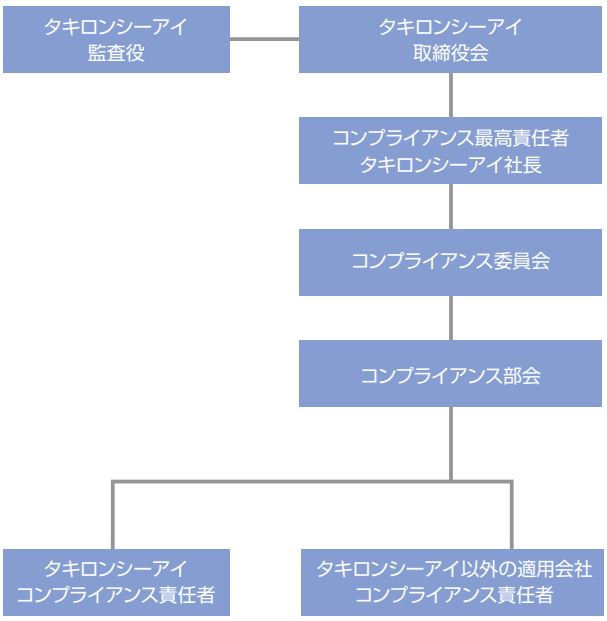
また、コンプライアンス遵守については下記の3点を基本方針として「タキロンシーアイグループ コンプライアンス・プログラム」を策定。

コンプライアンス委員会を中心とする管理体制を構築し、グループ会社を含めてコンプライアンス責任者を設置して、コンプライアンス遵守に積極的に取り組んでいます。

基本方針

1. 「健全な組織文化・風土」をつくる
2. 「不祥事を起こさない仕組みや業務プロセス」をつくる
3. 全役職員等にコンプライアンス意識を浸透させ、実践行動を促進する

コンプライアンス体制



リスクマネジメント

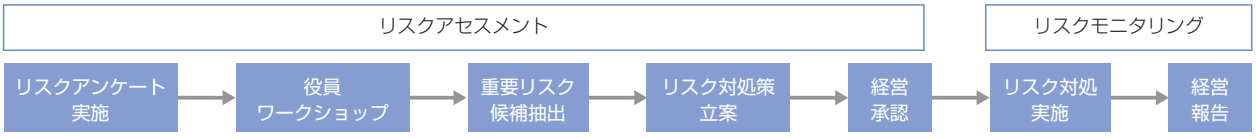
タキロンシーアイグループでは経営統合を機に、海外拠点を含めグループ全体で各種リスクの顕在化を未然に防ぐ「リスクマネジメント」体制の見直しを実施しました。

拠点単位ではなくグループ全体から俯瞰的に潜在リスクを把握の上、経営的に重要なリスクを抽出。所管各部門にて組織横断的にリスク対処を立案・実施する仕組みとしています。

また対処実施状況および効果については定期的にモニタリングする仕組みとし、PDCAサイクルを展開。

リスクを見える化し対処策を明確にすることで、リスクへの感性を高めると同時にリスク低減をはかっております。

リスクマネジメントスキーム（対象：グループ全拠点）



社会性報告

ステークホルダーとともに

タキロンシーアイグループの事業活動はさまざまなステークホルダーの皆様とのかかわりと信頼の上に成り立っています。ステークホルダーの皆様との間で価値観を共有しつつ連携を深め、相互信頼の下、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献してまいります。

株主・投資家の皆様とともに

タキロンシーアイは、金融商品取引法等の関係法令や東京証券取引所の定める規則等により開示が求められる重要情報について、東京証券取引所が提供する適時開示情報伝達システム（TDnet）を通じて公表するとともに、公表後速やかに当社ホームページへの掲載を行っています。

また、株主の皆様には半期ごとに決算概要やトピックスを記載した「株主向け報告書」をお送りしています。さらに機関投資家、アナリストの皆様向けには第2四半期、期末決算では経営トップによる決算説明会を開催するとともに、個別ミーティングを通じてコミュニケーションをはかっています。

お客様とともに

品質保証の取り組み

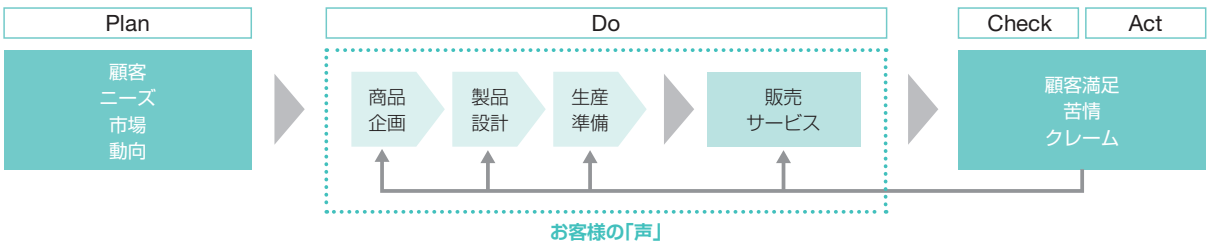
タキロンシーアイでは、「誰よりも良いもの」を旗印に、お客様にご満足いただける品質を提供していくため、製品の企画・開発から、生産、アフターサービスまでの各段階で、お客様ニーズの充足と品質確保に向けた品質保証活動を推進しています。

まずお客様とのコミュニケーション窓口としてはホームページ上での「お問い合わせ窓口」や、フリーダイヤルの「お客様相談センター」などがあり、お客様の「声」を活かし、製品・サービスを改善する仕組みを構築しています。

また品質保証活動の基礎となる仕組みとしては、各生産拠点で取得、運用しているISO9001があり、私たちの品質マネジメントシステム（QMS）を構成する重要な柱として機能しています。

このQMSの運用状況については、各生産拠点による内部監査と本社部門による監査によって、客観的にチェックを行う体制を整備しています。

品質保証体系図



安全への取り組み

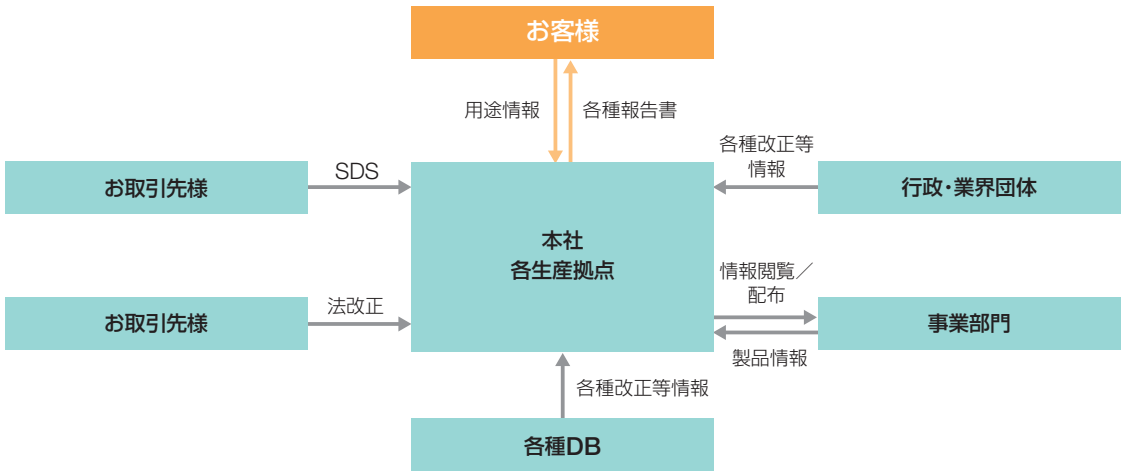
● 製品含有化学物質への対応

タキロンシーアイの製品の大半は成型品であるため、欧州の化学品規制REACHへの登録は行っておりません。しかしながら、サプライチェーンの中間に位置する立場から、2018年6月27日までに公表された計191物質はもとより、今後追加される高懸念物質（SVHC）についてもお客様への情報伝達を行い、適切に対応していきます。

またその他の製品含有化学物質についても、下記対応体系図に基づいて対応し、お客様に情報をお伝えします。

同様に2018年6月13日に公布された食品衛生法の改正やその他各種法令および各種化学物質への対応も適切に行ってまいります。

製品含有化学物質への対応体系図



お取引先様とともに

私たちは、プラスチック素材およびその加工技術をベースにして、環境との調和をはかり、人にやさしい商品を社会に提供することを基本理念として活動しています。

資材調達は、これらに関わるプラスチックおよびプラスチック関連材料、さらにプラスチック複合材料としての金属材料、加工製品など幅広く材料・技術を探求し、私どもと共に商品開発に取り組む事のできるパートナーを求めています。

購買取引の基本方針

グローバルな調達
— GLOBAL —

調達先を国内外に幅広く求め、常に製品の市場ニーズにマッチした材料・技術を探索します。

公平・公正な取引
— FAIR —

従来の商習慣にとらわれず、常に新しい取引関係の構築をめざします。また、購買取引は、関連法規を遵守し、公平・公正な取引関係を構築していきます。

自由競争と相互信頼関係
— FREE & FAITH —

系列、企業規模、取引実績の有無等を問わず自由競争原理を基本とした取引関係をめざします。また、相互の立場を尊重し信頼関係のある取引を追求します。

グリーン調達
— GREEN PROCUREMENT —

持続可能な循環型社会の実現をめざして、環境保護活動に意欲的な会社を調達先として優先的に選定し、環境負荷の低減に資する資材の調達、すなわちグリーン調達を推進します。

社会性報告

従業員とともに

タキロンシーアイグループでは、経営理念を理解・尊重した上で、目標に向かって積極的にチャレンジできる人材をグループ全体で育成する風土を醸成し、革新的なモノを次々と生み出せる組織であり続けたいと考えており、その実現に向けて“求められる人材像”を明確にし、教育・研修に積極的な投資を行っています。
また、多様な人材が活躍できる場の提供と、働き方改革やワークライフバランスを念頭にひとり一人の従業員の働き方を尊重し、健康で安心して働ける職場づくりをめざしています。

教育・研修制度

長期的な人材育成を目的として階層別教育を設けています。

また、業務を遂行するために必要な専門知識を身につける、職種別教育については、各部門の年度目標と連動させた教育プログラムを個人ベースで計画・管理し、組織の教育ニーズや個人の能力に応じた適切な教育を実践しています。

その他にも、幅広いジャンルの資格取得やスキルの習得にチャレンジできる通信講座等を受講できる制度を確立し、目標に向かって積極的にチャレンジし、意欲的に研鑽を続ける社員を支援しています。

ユニークな研修制度

❶ 駅伝リレー研修

タキロンシーアイで活躍する中堅社員が講師となって、実体験に裏付けられた「想い」「ノウハウ」「マインド」「仕事の失敗例や成功例」を次代に語り継ぎ、組織や部門の壁を越えたネットワークを構築することで、新しい企業風土の創造と、広い視野を持った人材の育成を進めています。

❷ 新入社員研修

タキロンシーアイグループで特に力を入れている教育研修の一つが、新入社員教育です。「入社時研修」、入社半年後の「新入社員フォローアップ研修」を実施し、入社後半年時点での成長と今後のキャリア確認を、人事部が中心となって行います。

❸ 新入社員指導担当者研修

「新入社員指導担当者研修」は、先輩社員が新入社員の日々の業務や精神的なサポートを中長期的に行うためのノウハウを伝授する仕組みです。

新入社員育成計画の進捗確認および社会人としての成長についてフォローすることにより、新入社員の早期戦力化ならびに信頼関係の強化をめざしています。

また、すべての指導育成担当者の対話の場を設け、指導の悩みや問題点を共有し、専門家のアドバイスを踏まえた上で、より良い解決方法を議論し、解決策を導き出すことにより、指導担当者自身の成長にもつながっています。


新入社員研修


新入社員指導担当者研修

健康管理

タキロンシーアイグループでは、社員の健康を管理し、組織のパフォーマンスを常に高い状態に保つことを目的として社員への定期健康診断を実施。診断結果の相談窓口として「健康相談室」を事業所ごとに設置し、産業医との面談の場を提供しています。

また、ストレスチェックで社員にストレスへの気づきを促すとともに、ストレスへの対処方法や職場改善につなげる重要性を啓蒙し、メンタルヘルス不調を予防する取り組みを推進しています。

さらに、社員だけでなくその家族が、専門のカウンセラーにさまざまな悩みや心配事を電話やメール等で相談できる「従業員援助プログラム」を導入するなど、仕事上のパフォーマンスに影響を与えうるさまざまな悩みや心配事を相談できる場を提供し、全社員が心身ともに健康に働くことができる職場づくりをめざしています。



メンタルヘルス講習会

ワークライフバランス

タキロンシーアイでは、就業時間外労働時間の削減に着手。労働時間の適正な管理と効率的業務推進の仕組みをつくることで2017年度の有給休暇取得率は55.4%となりました。また、毎週水曜日を「はやく帰る日」とし、ポスターの掲示や音声による放送を流すことで定時退社を促す活動を続けています。

さらに社員のワークライフバランスを経済面でサポートするために、福利厚生の一環としてカフェテリアプランを導入しました。社員ひとり一人がバランスのとれたライフスタイルを確立するために同プランを有効活用し業務のパフォーマンス向上につなげていただく取り組みです。

なお年次有給休暇取得の促進については、政府が掲げる2020年度目標70%に向けて、時間単位年休制度の導入などの具体的施策の検討を開始しております。



労働時間の適正管理

労働時間の適正管理、健全な職場環境の構築に向け、タキロンシーアイでは、主に以下の方策を推進しています。

❶ 36協定時間の遵守

時間外労働の上限時間を超える可能性のある社員と所属長に対し、事前に勤怠システムによるアラート通知を行う等して、36協定遵守を徹底しています。

❷ 長時間労働者に対する健康管理

長時間労働者に対し、産業医との面談を義務付けるとともに、健康状態の確認と受診結果の提出を義務付けています。

❸ 残業時間の把握

勤怠システムの出退勤時間と残業申請時間を照合し、乖離があった場合には、所属長経由で勤怠報告書の提出を義務付け、サービス残業の排除を徹底しています。

障がい者雇用の促進

タキロンシーアイでは「障がい者雇用ガイドライン」を制定。障がい者の法定雇用率の達成はもちろん、本社および各生産拠点での障がい者雇用を進めており、一層の雇用促進・定着率向上に取り組んでいます。

女性活躍推進

当社では、女性が活躍できる多くのフィールドがあります。

2018年度の女性新卒者は、工場技術部門、営業部門などに配属され、活躍の幅はさらに広がっています。(2018年度新卒者採用者数(総合職)男性8名、女性4名)

また女性活躍推進の一環として、2017年度には約4か月間かけて「明日の職場を考える研究会」を開催しました。公私ともにさまざまな立場にある女性社員の視点で、自職場や当社の潜在的な課題を抽出することを目的とし、最終会合では、課題解決のための具体的な施策について、社長をはじめとした経営層への発表を行いました。提案内容は女性活躍推進法に基づく行動計画案に盛り込み、ダイバーシティ推進に関する取り組みの一環として進めています。







育児・介護休業制度

タキロンシーアイでは多様な人材の活用に向けた職場づくりに取り組んでいます。その一環である育児休業制度の2017年度利用者は8名(タキロンシーアイ本体のみ)、育児休業後は取得者のうち希望者の100%が復職しています。

また、男性社員が育児休暇取得しやすい制度の導入や、制度の理解を深める社内広報を検討しています。

TOPICS　タキロンシーアイの融合を推進する社員参加型のプロジェクト

「もっとしゃべろか!」は、風通しのよい職場で信頼関係を築き、同じ目標へ向かう集団として力を発揮できるよう、融合を推進する社員参加型のプロジェクトです。

人材に根ざした潜在力を最大限に引き出し、新会社としてのパフォーマンスレベルをアップするにはオープンコミュニケーションが不可欠です。

そこで全社員対象の意識調査や、同期入社が交流する「同期会」、組織横断型社員運動「求められる人材像コミッティー」などを実施。コミュニケーションの場を設けています。

もっとしゃべろか!
Good chemistry
Good growth
タキロンシーアイ融合推進プロジェクト

さぁ、もっとしゃべろか!









人材育成の方向性

経営統合に伴い人事制度の一本化が図られ、2018年4月にタキロンシーアイグループの新たな人事制度が誕生しました。新制度の基本的な考え方、新しく導入された施策、タキロンシーアイグループとして期待する社員像等について、人事部長に聞きました。

人事部長
小川　良二郎

Q 人事制度一本化の進捗状況と基本的な考え方をご説明ください。

2017年4月の統合直後から人事制度の改定作業に着手しましたが、その際、統合前のどちらかの会社の制度に寄せてしまうのではなく、新しい会社としてありたい人事制度を白紙の状態から考える事にしました。

例えば、育児や介護を支援し、ワークライフバランスを向上させるための施策を一から考え直し、転勤がなく勤務地域を限定した処遇を設けようということで「地域総合職」を新たに導入しました。これは、どちらの会社にもなかった新しい仕組みです。

このような方向付けについて経営陣も交えてミーティングを重ね、1年間という短期間でタキロンシーアイの人事制度として2018年4月に移行することができました。

Q 人事部長としてタキロンシーアイグループ社員に望む人材像を教えてください。

タキロンシーアイグループの社員として期待するのは「積極的にチャレンジができる人」です。多様な変化が起こる時代であり、それを乗り越えるにはひとり一人が自分の事として積極的に取り組んでいく姿勢が大切です。そのためにも「高い目標を設定し、その目標達成に意欲を持って取り組み、自己の成長のための不断の努力を重ねられる人」を継続して育成していきます。

Q キャリア形成や人材育成の仕組みについてお聞かせください。

新たな人事制度では、長期視点の人材育成戦略を反映させています。また、経営統合を契機に導入した本部制を活かし、各部門を統括する「本部」という大きな枠でひとり一人のキャリアを考え、さまざまな経験を積むことで成長を促していきます。人材育成には大きく二つの方向性があり、一つは、さまざまな仕事を経験することで人は成長するという考え方です。この考え方を基に、3年程度で元の職場に復帰することを前提に、違う部門の業務も経験してもらう「ユーターン異動制度」を新設しました。本人が明確な目的を持って異動し、元の本部に復帰した際には異動先での経験を活かしてもらうことを狙いとしています。もう一つが特定の分野で専門知識とスキルを高め、その仕事を極めたプロフェッショナルになってもらう道です。本人のキャリア志向と周囲の期待を勘案して、どちらの道も選ぶことができる育成システムになっています。

また、年に一度、社員が上司とキャリアについて話し合う「キャリア面談」という仕組みも導入しました。スキルの向上や人としての成長を個人任せにせず、上司も積極的に関与して、会社全体で成長を支えていく仕組みです。社員は自分がどうなりたいのかを見つめる機会として、上司は社員の成長のために教育計画や配置等を考える機会として活用します。

Q 今後、人事部として長期的に取り組んでいきたいことは何でしょうか？

人事部として、長期的に取り組んでいくべきことは、多様な働き方が可能となる柔軟な仕組みを整備して、社員のワークライフバランスを向上させていくことだと考えています。今回導入した「地域総合職」や「キャリア面談」に加え、今後、さらにダイバーシティ等多様性への対応の強化や、時間単位年休、テレワークの導入といった仕組みの導入も検討しており、このような機会を多くの社員が活用することで、自分らしく働きながら、会社とともに社員が成長していくことを期待しています。

社員の成長がタキロンシーアイの成長につながります。そして社員の成長には個人の努力とともに周囲の協力による成功体験の積み重ねが重要であると考えています。周囲との良好な関係を築くコミュニケーション能力を磨くために、働きやすい環境の整備に加え、研修や対話の機会をより多く提供していきたいと考えています。

社会性報告

安全衛生の取り組み

タキロンシーアイグループでは「安全衛生は企業存続の根幹であり、そこで働く人々の幸せは、安全な職場と心身の健康が保たれてこそ実現するものである」との認識を、すべての社員で共有し、ひとり一人が責任のある行動を実践していけるよう、日々の安全衛生活動を進めています。ゼロ災は必ず実現できる。健全で活気にあふれた職場環境を実現することをめざし、グループ全体の安全衛生リスクを継続して低減する活動に取り組んでいます。

安全衛生体制



安全衛生方針

「ひとり一人への安全意識の浸透と健全な職場づくり」をスローガンとした統一された方針に基づき、各社が安全衛生活動を展開・推進し、災害予防や再発防止を実現すると同時に、相互に情報を共有・活用することによってリスクを継続して低減する体制を構築します。

重点実施項目

① 全員参加の活動で安全意識の浸透
② 基本となる安全活動の標準化
③ 災害要因の早期発見とリスク低減策の実施
④ 関連法規遵守と法改正対応の徹底
⑤ 情報の共有化と安全教育の実施
⑥ メンタル疾病予防策の推進
⑦ 労働時間の適正管理

生産拠点における活動

タキロンシーアイグループでは、各生産拠点で安全衛生委員会を中心に各種活動を実施しています。また、国内生産拠点を5つのグループに分け、工場間相互安全チェックを実施し、不具合点の相互指摘や他拠点で参考となる活動の取り込みにより拠点間での情報共有化を図り、活動の活性化を図っています。さらに2017年度は、本体9工場、グループ会社国内拠点17工場、海外拠点7工場で「安全診断」を実施し、統一感を持った活動へつなげ、今後は活動の有効性にまで踏み込んだ、「安全監査体制」の構築をめざしています。


指摘事項改善報告と意見交換会


現場巡回･相互安全チェック状況

安全体感研修

危険予知能力を高めるため、2017年度から網干工場に安全体感教育装置を導入し、体感研修を実施してきました。2017年度は体感研修を80回開催し、延べ774名が受講しました。

今後も生産設備に則した体感教育装置の拡充を進め、職場における身近な危険を直感的に感じ取れる能力を養うことで、危険感受性の向上、安全意識の向上を図り、タキロンシーアイグループ全体で労働災害ゼロをめざします。


粉じん爆発安全体感装置


滑り･転倒安全体感装置


Vベルト巻き込まれ安全体感装置

現在設置している安全体感装置

① 玉掛け挟まれ安全体感装置
② 回転刃切れ安全体感装置
③ 指差し呼称安全体感装置
④ スクリューフィーダ挟まれ安全体感装置
⑤ Vベルト巻き込まれ安全体感装置
⑥ 溶剤爆発･燃焼安全体感装置
⑦ 過電流･トラッキング安全体感装置
⑧ 漏電遮断器有効性安全体感装置
⑨ シート巻込まれ安全体感装置
⑩ ローラー挟まれ安全体感装置
⑪ エアーシリンダー挟まれ安全体感装置
⑫ 粉じん爆発安全体感装置
⑬ 滑り･転倒安全体感装置

社員の声

安全体感研修を受講して

安全体感研修では、工場内のさまざまな危険を体感装置を通じて体験することができ、安全への意識が向上しました。特に、竹や割り箸を手に見立てて挟まれ、巻き込まれを体験する装置では、想像以上の機械の力に驚くとともに、このような危険と隣り合わせの仕事をすることに対して気が引き締まりました。また一旦挟まれたり、巻き込まれたりすると対処が難しいことを痛感しました。それだけに、工場内に潜む危険を予め知っておくことは、災害を防止するために非常に重要なことだと感じました。

私は今後、工務グループの一員として、KY活動や6S活動(5S＋safety)を通して安全な作業環境を整えていくとともに、周囲に潜む危険を共有し災害を防止できるようコミュニケーションを大切にしたいと考えています。



揖保川事業所
工務グループ
太田垣 朱実

社会性報告

地域・社会とともに

タキロンシーアイグループでは、各事業所および生産拠点のある地域において、各地域住民の方々の良き隣人となることをめざし、各種地域活動への参加や被災地への支援活動等を行っています。
また、社会を担う一員としてスポーツ活動・研究機関・国連機関等の支援や生物多様性保全活動等にも積極的に取り組んでいます。

事業所・生産拠点の周辺地域との共生

2017年度の主な活動実績は周辺の環境保全・美化活動、近隣で開催される各種行事などへの積極参加、近隣学校児童の工場見学や職業訓練、インターンシップ受け入れ等に加えて、災害被災地への義援金拠出などの寄付活動などです。

今後も引き続き、各地域への貢献と交流および被災された地域への支援活動に取り組んでまいります。

主な活動実績(2017年度)

活動内容	件数
周辺地域美化活動	23
地域社会への寄付	9
地域イベント・活動への参加	5
交通安全活動への参加	4
資源回収	4

活動内容	件数
インターンシップ受け入れ	3
献血	3
地域イベント・活動への物資提供	3
被災地への義援金	2
被災地への物資提供	1
合 計	57

活動状況


相模川 清掃・植栽活動への参加
(平塚工場)


東日本大震災復興支援物資の提供
(日本ポリエステル(株))


海外学生インターンシップ受け入れ
(岡山工場)


新見ふるさとまつりへの参加
(岡山工場)


資源回収活動
(タキロンポリマー(株))


かすみがうら市フラワーロード植栽活動
(東京工場)


東近江市初期消火競技大会参加
ダイプラ(株)(旧タキロンプロテック(株))


東近江市「市さわやか環境づくり協議会」協賛
ダイプラ(株)(旧タキロンプロテック(株))

海外拠点における社会貢献活動

インドネシアの人口2億6千万人の9割近くがムスリムであり、イスラム教にちなんだ行事が多くあります。

PTタキロンインドネシアではこれら行事に対する慈善活動を2003年から行っており、断食明け大祭前の地域世帯への生活物資配布等を実施しています。

特に断食明け大祭前の生活物資配布にあたりましては、500世帯を超える地域住民の方々をご案内し、日頃の事業活動へのご理解、ご協力に謝意をお伝えするとともに、全世帯に手渡しにて物資を配布する活動を実施しています。

また中国・上海に拠点を置く上海シーアイ化成電子では社会貢献活動の一環として現地社員が定期的に献血に参加しています。

今後も地域住民の方々にご理解を頂きつつ、事業活動と併せて社会貢献活動を継続してまいります。



献血証


断食明け大祭前の生活物資配布

スポーツの振興・支援

タキロンシーアイは2015年度より公益財団法人日本水泳連盟（JASF）との間で競泳日本代表オフィシャルスポンサー契約を結び、競泳日本代表（トビウオジャパン）を応援しています。

そしてオリンピック、世界水泳に次ぐ“競泳の世界3大大会”の一つである「パンパシフィック水泳選手権」がオリンピックの中間年にあたる2018年に開催。

タキロンシーアイは16年ぶりに日本で開催される本大会に協賛し、さらなる水泳界の振興をバックアップしています。

また「安全・安心」のプールサイド用防滑性床材を提供しているタキロンマテックス（株）は、日本水泳連盟主催の競泳大会スポンサー協賛ならびに、一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟のオフィシャルスポンサーとして水泳振興活動を幅広く応援しています。



PAN PACS 2018

研究機関・国連機関への支援

タキロンシーアイは東京大学大気海洋研究所（気候システム研究系）の地球温暖化をはじめとする地球的規模の気候変動メカニズム研究を継続的に支援しています。

また、2018年5月には途上国の子供たちの飢餓をなくすため、国連WFPが横浜みなとみらいで開催するチャリティイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド2018横浜」に協賛し、約30名の有志社員・家族が参加しました。今回の参加費の一部は国連WFPの学校給食プログラムに役立てられています。



WFPウォーク・ザ・ワールド2018 横浜


感謝状

生物多様性保全の取り組み

「あかねさす 紫草野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る」

万葉集にも詠われた「紫草（ムラサキ）」は、東近江市の花に選定され、古くから染料や生薬として利用されてきましたが、地球温暖化等の環境変化により、今や絶滅危惧種に指定される希少な植物です。

そこで東近江市、地域おこし協力隊、地元高校、地域住民の皆さんは地域活性化活動の一環として、冷涼な山間部で「紫草」の栽培に挑戦しています。

そしてこの万葉集ゆかりの地である滋賀県東近江市に生産拠点を置き、事業活動を行うダイプラ（株）（旧タキロンプロテック（株））もこの活動に協力。

鹿などによる食害防止を目的に、栽培エリアに獣害対策用フェンス（商品名：パタサク）を提供し、併せて地域の一員として社員による施工作業を実施。「紫草」の存続、保護活動に協力させて頂きました。





環境報告

地球環境とともに

タキロンシーアイグループでは地球環境保護を目的として新たに環境方針を策定しております。この方針に基づき生産プロセスの改善、環境配慮型製品の開発やサービスの提供など、事業活動全体にわたって環境負荷低減に努めております。また「マイクロプラスチック問題」といった個々の社会課題への対応など全社的に環境保全に向けた取り組みを推進するとともに、環境マネジメント体制を強化してまいります。

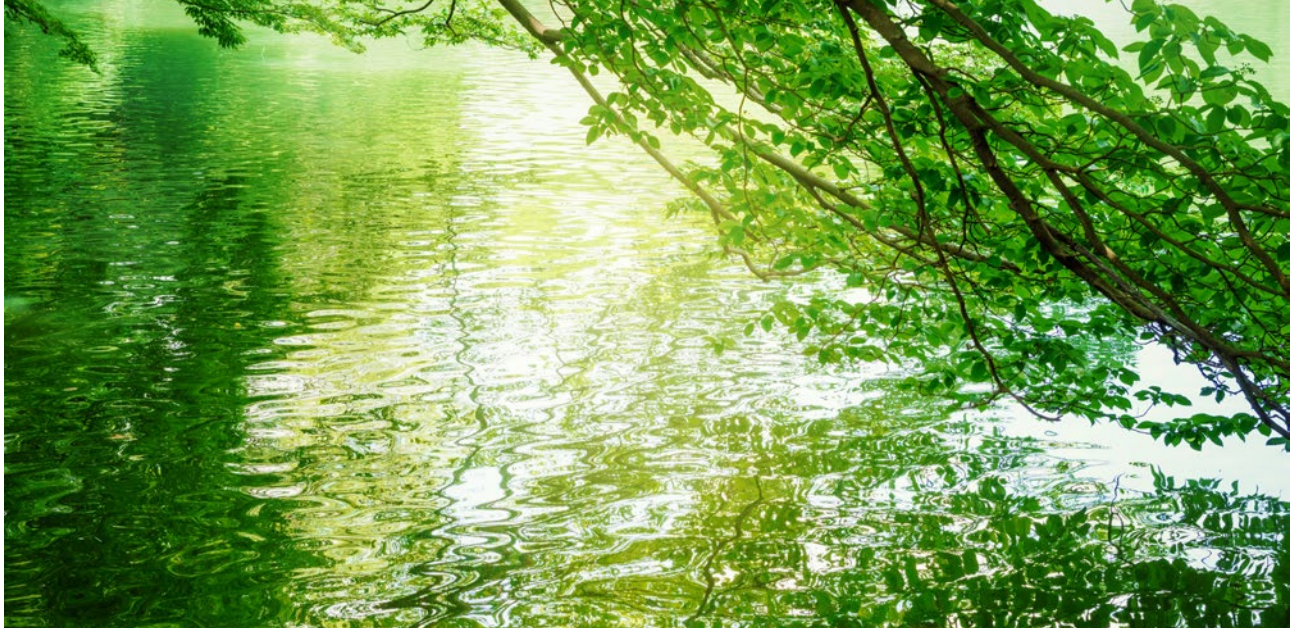
環境方針

環境理念

『私たちは常に地球環境保護をこころがけ、
人と地球と未来にやさしいものづくりをめざします。』

環境基本方針

1. 環境に関する法令を遵守し、社会との調和につとめます。
2. 環境保全に取り組む体制やルールを構築し、継続的なマネジメントサイクルとして環境保全を推進します。
3. 企業活動のすべてにおいて、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、有害物質の排出削減などの環境負荷低減につとめます。
4. 環境と安全に配慮した技術の開発と製品・サービスの提供につとめます。
5. 社員の環境保全意識の向上を図るとともに、積極的な環境情報の開示を通じて社会とのコミュニケーションを推進します。

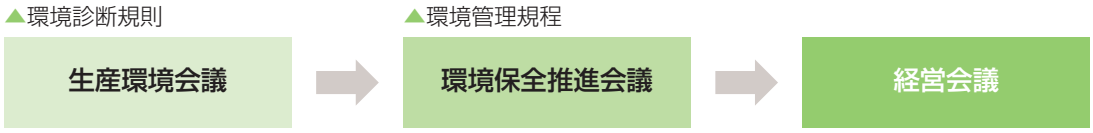


環境マネジメント体制

タキロンシーアイでは経営理念のひとつに「私たちは地球環境保護をこころがけ、企業の永続的な発展成長を目指します」を掲げており、環境規制の遵守、環境負荷の低減、環境配慮型製品の供給、省資源・省エネ、廃棄物の削減等の活動に取り組んでおります。

またこれらの活動については、グループ全体の方針・目標を設定の上、進捗を管理するための環境マネジメント体制を構築。経営企画本部長をトップとして会議体を設置し、経営会議で結果および進捗について定期的にレビューする仕組みとしています。

環境マネジメント体制



環境保全活動内容と実績

タキロンシーアイでは環境に関わる課題についてグループ全体で目標を設定し環境保全活動に取り組んでおります。

2017年度の活動内容及び自己評価結果は以下のとおりです。

2017年度活動内容と実績

（自己評価（達成度）　90%以上…◎　70%以上90%未満…○　70%未満…■）

	目 標	項 目	活動状況	自己評価
①	環境負荷低減活動の推進	廃棄物の削減	●製造歩留り向上、廃棄物の分別の実施	■
		省エネ	●省エネ設備・機器の導入等	■
②	化学物質の管理と低減	法令順守	●化審法、化管法、安衛法をはじめとする法規制の遵守	◎
		PRTR対象物質の排出・移動量の削減	●対象物質の使用低減活動	○
③	環境活動の外部公開	環境報告	●CSR報告書、ホームページによる外部公表	◎
④	環境会計による活動の評価	環境会計	●環境省のガイドラインに沿った環境会計の集計と評価	○

環境報告

環境指標

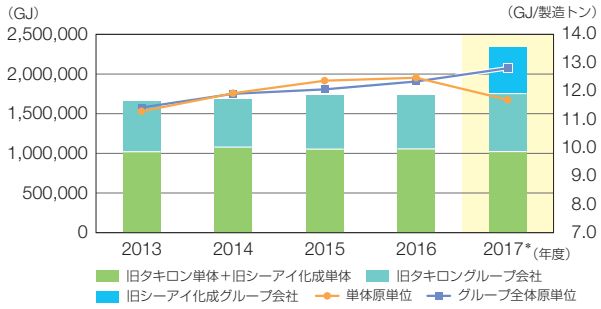
タキロンシーアイグループでは環境負荷低減・環境保全に向けた取り組みの一環として、タキロンシーアイ生産拠点およびグループ生産会社における各環境指標について年間のデータを集計の上、分析しています。
そして、グループ各拠点での事業活動に伴う環境負荷の低減の取り組みとその結果を評価し次年度の活動につなげることで、環境負荷低減・環境保全活動を推進しています。

省エネ・省資源の取り組み

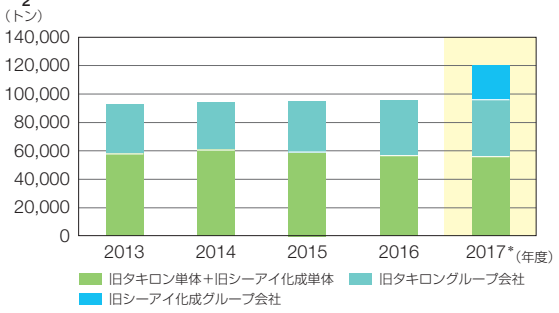
2017年度タキロンシーアイ単体におけるエネルギー使用量は微減となり、それに伴いCO_2排出量も減少しました。また省エネ活動の推進などによりエネルギー原単位も減少しました。

一方2017年度より旧シーアイ化成グループ会社のデータを算入したことにより、グループ全体のエネルギー使用量、エネルギー原単位、CO_2排出量はともに増加する結果となりました。

エネルギー使用量とエネルギー原単位の推移



CO_2(二酸化炭素)排出量の推移



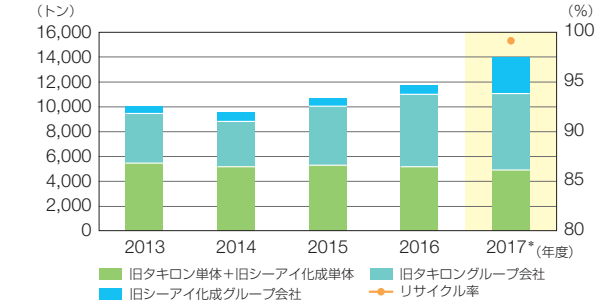
排出物削減の取り組み

タキロンシーアイでは工場から排出される廃棄物、有価物、専ら物の合計重量を排出物総量と定義し、これらを削減することを目標としています。

2017年度は、旧シーアイ化成海外グループ会社のデータを算入したことなどの影響で排出物総量は増加する結果となりました。

なお2017年度より、廃棄物の中でリサイクルされる重量の比率をリサイクル率として把握する活動を開始しております。

排出物総量の推移



● 定 義

排　出　物：工場から排出される廃棄物、有価物、専ら物
専　ら　物：リサイクルを目的として無償で引取られる紙、古繊維、くず鉄
有　価　物：排出物の中で有価物として売却したもの
廃　棄　物：排出物の中で専ら物、有価物以外のもの
排出物総量：排出物の重量(専ら物、有価物、廃棄物の合計重量)

$$\text{リサイクル率} = \left(1 - \frac{\text{リサイクルされずにそのまま埋立処理された廃棄物重量}}{\text{排出物総量}}\right) \times 100$$



化学物質の管理と低減の取り組み

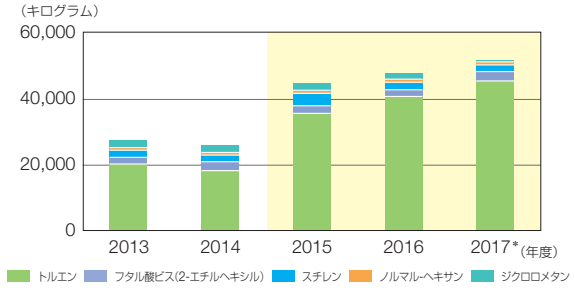
タキロンシーアイグループでは、環境負荷の大きいPRTR法対象化学物質について、グループ全体で代替物質への転換、対象物質の使用量削減に取り組んでおります。

うちトルエンの排出量については、2015年度より溶剤を使用する旧シーアイ化成グループ会社分を含めて算出しているため、大きく増加しています。

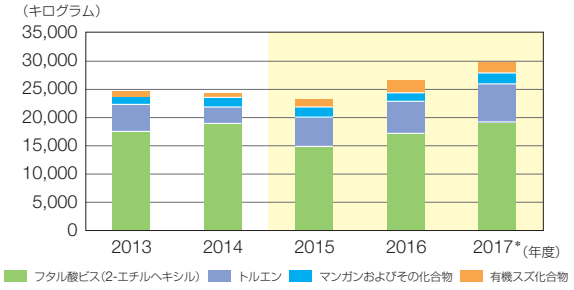
またスチレンの排出量については処理設備導入により2015年をピークに減少しています。

一方フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)・有機スズ化合物については当該物質を含む製品の増産にともない廃棄物が増加し、結果、移動量は増加しました。

PRTR法対象化学物質排出量の推移



PRTR法対象化学物質移動量の推移



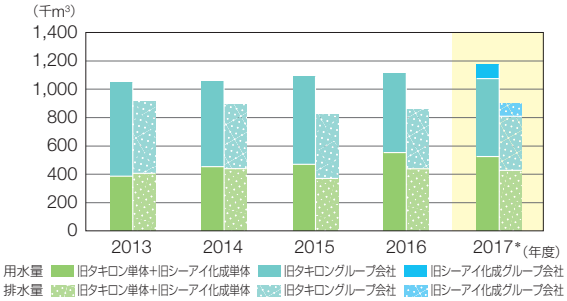
水資源の有効利用の取り組み

タキロンシーアイグループでは、限りある水資源の有効利用を図るためにグループ全生産拠点の用水量・排水量を適切に把握しています。

2017年度は、旧シーアイ化成グループ会社のデータを算入したことにより、用水量・排水量とも前年から増加しました。

今後も生産時の冷却水の循環利用、節水設備の導入などを進めることで、引き続き用水量・排水量の削減に努めます。

用水量・排水量の推移



環境報告

環境会計

タキロンシーアイグループでは、環境保全活動を効率的に進めるために、環境保全活動にかかわるコストと費用対効果を適切に把握・分析する目的で環境会計を導入しました。
その中で環境保全コストとして、環境対策、省エネ・省資源対策、リサイクル等にかかわる投資額・費用額とともに、生産改善活動による省資源、リサイクルによる費用削減額を算出しています。
また生産面以外でのCO_2削減についても、タキロンシーアイは特定荷主として運送手段の多様化・効率化に積極的に取り組んでいます。

環境保全コスト

タキロンシーアイグループにおける環境保全にかかわる費用額については、2017年度より旧シーアイ化成グループ会社のデータを算入しており、環境負荷の少ない梱包資材の購入量増加などに起因し上・下流コストと管理活動コストは増加しましたが、総額は減少しました。

また、投資額については、ほぼすべての項目で減少しました。

(単位:百万円)

分類		2016年度		2017年度	
		費用額	投資額	費用額	投資額
(1)事業エリア内コスト		549	217	307(12)	148(13)
内訳	(1)－1公害防止コスト	53	43	26(1)	10(3)
	(1)－2地球環境保全コスト	175	138	89(5)	134(10)
	(1)－3資源循環コスト	321	36	192(6)	4(0)
(2)上・下流コスト		139	0	196(4)	10(10)
(3)管理活動コスト		73	20	117(1)	0(0)
(4)研究開発コスト		0	0	0(0)	4(0)
(5)社外活動コスト		20	4	21(0)	2(0)
(6)環境損傷対応コスト		0	0	0(0)	1(1)
合計		781	241	641(17)	165(24)

( )内:旧シーアイ化成グループ会社データ

環境保全効果(事業エリア内効果)

2017年度より旧シーアイ化成グループ会社のデータを算入したことにより、いずれの項目においても数値は増加しました。

なお、廃棄物の中でリサイクルされる重量の比率をリサイクル率として把握する活動を2017年度より開始しております。

効果項目	2016年度	2017年度
1. 電力使用量(千kWh)	158,625	217,141(62,943)
2. 二酸化炭素排出量(t)	95,686	119,483(24,134)
3. 工場排水量(千m^3)	851	897(93)
4. 排出物総量(t)	12,034	13,936(2,906)
5. リサイクル率(%)	—	97.0(90.1)

( )内:旧シーアイ化成グループ会社データ

環境保全経済効果

2017年度より旧シーアイ化成グループ会社のデータを算入しておりますが、いずれの項目においても削減額が増加しました。

特に生産性改善活動によるリサイクル率の向上の効果が大きく、省資源、リサイクルによる費用削減金額が増加しました。

今後も引き続き、歩留り向上やリサイクル率向上に向けた取り組みを推進します。

(単位:百万円)

効果項目		2016年度	2017年度
収入	有価物の売却による収入	68	120(11)
費用削減	省エネによるエネルギー費用削減	34	40(1)
	省資源、リサイクルによる費用削減	152	226(21)

( )内:旧シーアイ化成グループ会社データ



物流への取り組み

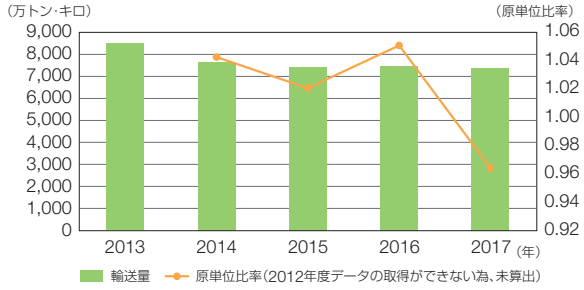
タキロンシーアイは、年間3000万ﾄﾝ･キロ以上の特定荷主です。

これまで合理化計画書と定期報告書を所管省庁に提出しており、その達成に向けてグループ各社を含めて物流拠点の見直しや積載効率向上に取り組んでいます。

2017年度は幹線トラックの大型化、積載効率向上対策の効果および貸切便比率の高い事業が好調であったことから原単位を引き下げる結果となりました。

2018年度は引き続き、幹線トラックの大型化、積載効率向上対策を実施するとともに、モーダルシフトを導入し、さらなる効率化をめざす計画です。

貨物輸送量の推移



2017年度エコシップ･モーダルシフトの効果

	実績	単位
CO_2削減量	147	t-CO_2/年
CO_2削減率	43.4	%（削減）

エコシップマーク

TOPICS　環境に配慮した鋼橋塗膜除去工法

タキロンシーアイが加入している「循環式エコクリーンブラスト研究会」の「循環式エコクリーンブラスト工法」が、平成30年度環境賞『環境大臣賞』を受賞しました。

ブラスト工法とは鋼橋の塗装塗替え工事に採用され、古い塗装を除去するために研削材を塗装面に投射して削りとる工法ですが、「循環式エコクリーンブラスト工法」はこの研削材に、粉砕せず分別再利用が可能な金属系研削材を採用することで、従前研削材の粉砕により発生していた産業廃棄物と粉じんを極限まで削減し、かつ研削材の再利用によるコスト削減が可能になったとして高く評価されました。

タキロンシーアイでは、同研究会と共同で、このブラスト施工の際に使用される耐久性と柔軟性に優れた「養生シート」の開発を行っており、2018年度中の上市をめざしています。

一般的に使用されている養生シートと比べ、「破れにくい」「柔らかい」ため、施工時の歩留まりを低減できることが特長です。



受賞写真


施工写真外観







施工写真 左部：他社シート
右部：開発品

会社概要

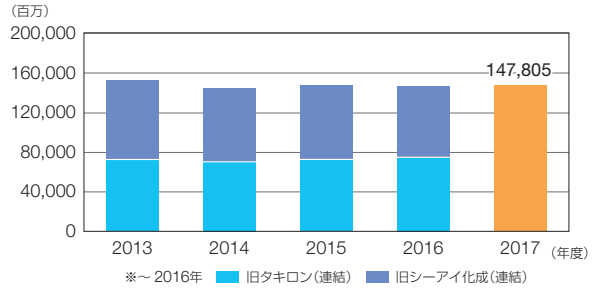
Corporate Profile

会社概要

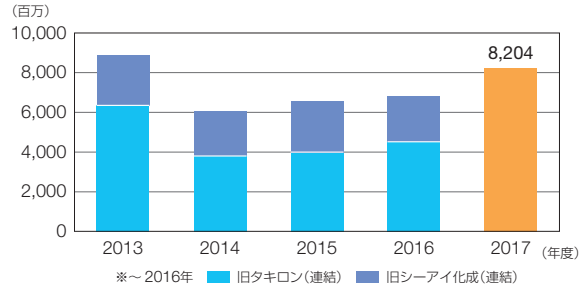
商　　号	タキロンシーアイ株式会社 (C.I. TAKIRON Corporation)	代 表 者	代表取締役社長　南谷陽介
本　　社	大阪市北区梅田三丁目1番3号 ノースゲートビルディング	決 算 期	3月31日
		資 本 金	15,189,138,561円
創　　業	大正 8 年10月10日(1919年)	株式上場	東京証券取引所株式市場　第一部
設　　立	昭和10年12月20日(1935年)	従 業 員	3,420人(2018年6月末日現在 連結) 1,139人(2018年6月末日現在 単体)

財務ハイライト

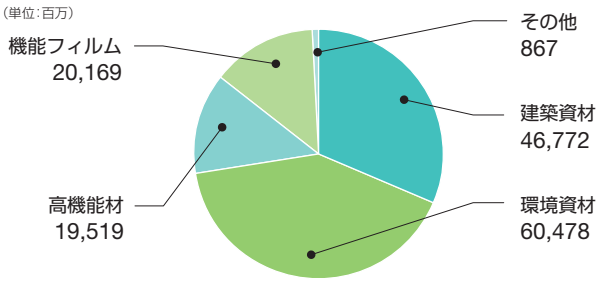
売上高推移(連結)



経常利益推移(連結)



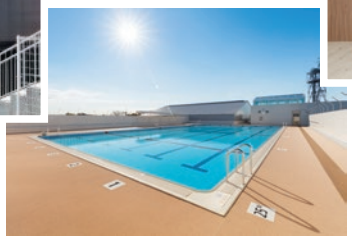
2017年度 セグメント別売上高



事業概要

建築資材事業

住宅資材および管工機材を中心に快適な住宅づくり、街づくりを支える住設資材製品、耐衝撃性・軽量性・採光性・耐候性など優れた特性を持つポリカーボネート製採光建材製品、快適な生活を足元から支える床材製品、建築内外装に使用する高い質感の化粧フィルム製品、防災・減災に貢献する防災製品を取り扱う事業部門です。



環境資材事業

国内トップクラスのシェアを誇る高品質・高機能の農業用ビニルフィルムやポリオレフィンフィルム・灌水チューブなどのアグリ製品、トンネル・ダム・廃棄物処分場などの社会インフラの機能や安全性を支える遮水・止水材料などのインフラマテリアル製品を取り扱う事業部門です。




高機能材事業

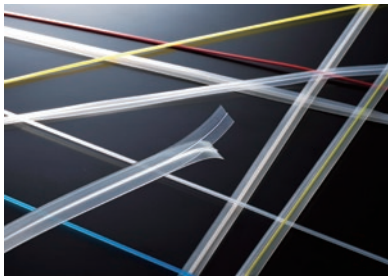
耐薬品性・耐熱性を持つ汎用塩ビ板、制電・難燃・波長制御等の機能を持つ高機能各種樹脂板など半導体・液晶関連他、幅広い産業分野で使用される高機能材料、デジタル一眼レフカメラを中心に医療および測定用ポンプ・電子錠などに使用される小型精密モータ、内装・検査機・環境分野向け磁石対応型ホワイトボードシート・タングステンシート・磁性制振材などの磁性材料を取り扱う事業部門です。




機能フィルム事業

加熱・収縮機能を持ち、PETボトル飲料、食品・芳香剤容器等の収縮ラベルとして使われる“ボンセット”、プラスチックジッパーテープおよびジッパー付ポリエチレン袋として食品・薬品などの包装材料に用いられる“サンジップ”を取り扱う事業部門です。





タキロンシーアイおよびグループ会社(2018年10月1日現在)

タキロンシーアイ

- 本　　社　大阪市北区
- 東京本社　東京都港区

● 営業拠点

- 札幌
- 仙台
- 東京
- 名古屋
- 大阪
- 広島
- 高知
- 福岡
- 鹿児島

● 製造拠点・研究所

- 栃木工場・佐野工場(栃木県)
- 東京工場(茨城県)
- 平塚工場(神奈川県)
- 滋賀工場・総合研究所(滋賀県)
- 網干工場・揖保川事業所・安富工場(兵庫県)
- 九州工場(熊本県)



本社



東京本社

グループ会社

● 建築資材事業セグメント

- 三和サインワークス株式会社
- 日本ポリエステル株式会社
- タキロンKCホームインプルーブメント株式会社
- タキロンマテックス株式会社
- BONLEX EUROPE S.R.L.
- 上海世愛化成貿易有限公司(上海シーアイ化成貿易)

● 環境資材事業セグメント

- 北海道サンプラス株式会社
- PT. TAKIRON INDONESIA
- 株式会社ヨコビ
- シーアイマテックス株式会社
- シーアイアグロ株式会社
- ダイライト株式会社
- ダイプラ株式会社
- 北海ダイプラ株式会社
- ダイプラテック株式会社
- ダイプラ・ウィンテス株式会社
- タキロンエンジニアリング株式会社

● 高機能材事業セグメント

- タキロンポリマー株式会社
- CIKナノテック株式会社
- タキロン・ローランド株式会社
- 上海希愛化成電子有限公司(上海シーアイ化成電子)
- 他喜龍塑料(常州)有限公司(タキロン常州)

● 機能フィルム事業セグメント

- 株式会社ボンパック
- Bonset America Corporation
- Bonset Latin America S.A.
- 上海桑普拉斯塑料有限公司(上海サンプラス)

● 製造会社

- タキロンテック株式会社

● 物流会社

- タキロンシーアイ物流株式会社

タキロンシーアイグループ
『CSR報告書2018』に関する第三者意見



サステナビリティ・コンサルティング代表
成蹊大学非常勤講師　猪刈 正利 氏

東北大学工学部卒業。大手金属メーカー、大手シンクタンクを経て現職。CSR／サステナビリティレポート作成コンサルティング・第三者意見執筆、ISO14001審査／コンサルティング／セミナー講師などを手掛ける。

2017年4月1日にタキロンシーアイグループが誕生しました。今回、同グループの『CSR報告書』としては第2号となる本書を精読させていただきましたが、第三者としての意見は次のとおりです。

評価できる点

1. トップコミットメントでは、持続可能な開発目標（SDGs）に言及したのち、社会・環境課題の解決に資する製品・サービスの提供を通じて新たな企業価値を創出し、かつ社会の持続的発展にも貢献していくことが述べられています。実際、その詳細は、「タキロンシーアイグループ企業価値向上プロセス」及び「社会に貢献するタキロンシーアイ製品」他で説明され、本書全体のキーコンセプトとなっています。
2. 座談会「タキロンシーアイグループのこれから」は、たいへん読み応えのある内容です。CSR報告書という観点からは、特に次の点が印象に残りました。
   - 貴社の製品である床材『プラスケア』は、次代を担う子どもたち及び足腰の弱った高齢者の安全確保に貢献しています。これは自社の事業を通じた社会課題解決の好事例と言えます。
   - 「これからの「あるべき姿」を考える」では、例えば国内の人口減少・少子高齢化、ロボット化やAIの伸展、グローバル化の加速、そして環境問題の益々の深刻化などの社会・環境の変化を踏まえた会社の「あるべき姿」が“未来志向”で議論されています。
3. （私自身サラリーマン時代に経営統合を数度、経験いたしましたが）統合後僅か1年で、新たな人事制度を構築された関係者のご尽力に敬意を表します。また人事部長のインタビューで、「新たな人事制度では、長期視点の人材育成戦略を反映させている」「自分らしく働きながら会社とともに社員が成長していく」他のコメントがあり、“未来志向”での更なる進展を期待しています。

今後に向けて

1. タキロンシーアイグループが誕生して間もないこともあり、環境データの集計範囲が拡大され、そのため環境負荷総量も増加傾向にあります。しかし一番気になったのは、（その過去データの結果ではなく）例えば3～5年先の環境目標が開示されていない点です。今後は、同環境目標も開示したうえで、PDCAサイクルで取り組み、そしてその結果を開示していく必要があります。
2. 環境報告では、マネジメント体制や各種取り組みを説明したうえで、その結果（例：CO_2排出量、PRTR法対象化学物質排出量）を推移データとして客観的に開示しています。しかし社会性報告では、方針や各種取り組みの説明は豊富ですが、その結果（例：労働安全衛生に関する数値データ、健康診断受診率）の開示には課題があります。環境報告と同様に、結果を数値で客観的に開示することを推奨いたします。
3. SDGs及びパリ協定の採択、そして年々拡大するESG投資の拡大も踏まえ、環境省の「環境報告ガイドライン」が6年ぶりに改定されました。その改定ポイントの1つに「経営の方向性（長期ビジョン、戦略、ビジネスモデル）を示す、将来志向的な非財務情報を記載」とあることから、（過去データの記載にとどまらず、2030年や2050年を標榜した）“未来志向”の長期ビジョンもしくは戦略の策定・開示を期待しています。

第三者意見をいただいて



取締役兼専務執行役員
三宅 貴久

2017年4月の経営統合より「統合シナジーの創出」に注力してきた弊社としましては、「企業価値向上プロセス」、「経営統合シナジー効果」および「新人事制度」についての取り組みをご評価いただきましたことは大変喜ばしく、引き続きシナジー効果の最大化を目指してまいります。

また、ご提案いただきました中長期の環境目標と社会性報告に関わる情報の開示、およびSDGs・パリ協定・ESG投資等を視野に入れた未来志向の長期ビジョン・戦略の策定・開示につきましては、今後のCSRに関する明確な指針となり得るものと考えます。

弊社グループは2019年に創立100周年を迎えますが、次の100年に向けて、ご提案いただきました点をひとつ一つCSR活動に織り込み、実現していくことにより社会の持続的発展と社会課題の解決に邁進してまいります。

タキロンシーアイ株式会社

本 社
〒530-0001
大阪市北区梅田3丁目1番3号 ノースゲートビルディング
TEL (06)6453-3700　FAX (06)6453-3884